

～健口と輝く笑顔のために～

# 歯科衛生だより 会報

**2019 October vol.53**

発行人／武井 典子 発 行／公益社団法人 日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19  
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <http://www.jdha.or.jp/>



## 第21回歯科衛生国際シンポジウム開催される

2019年8月15日(木)～17日(土)の日程で、第21回歯科衛生国際シンポジウム(ISDH)がオーストラリアのブリスベンにて開催されました。これに先立ち、8月12日(月)～14日(水)に、国際歯科衛生士連盟(IFDH: International Federation of Dental Hygienists)の加盟国代表者会議(HoD会議)が開かれ、日本歯科衛生士会 会長 武井典子と日本歯科衛生学会 学会長 吉田直美の2名が参加しました。

ブリスベンは、オーストラリア連邦クイーンズランド州南東部に位置する州都であり、シドニー、メルボルンに次ぐ、オーストラリア第3の都市です。年間を通して晴天の日が多く、冬場も温かく過ごすことができ、「太陽の州」と呼ばれる緑豊かな所です。治安

もよく日本との時差は+1時間と過ごしやすい街でした。会場となったコンベンションセンター(Brisbane Convention & Exhibition



ブリスベン(オーストラリア)

Centre)は、ブリスベン川半島部の風光明媚な場所に位置しています。酷暑の日本から、真冬でも平均気温20度のブリスベンへ移動して、避暑地滞在となつた1週間でした。

### \* \* \* HoD会議(House of Delegates Meeting) [ブリスベン] \* \* \*

### 加盟国代表者会議

HoD会議は、12日(月)に参加国の代表者たちとの顔合わせからスタートし、14日(水)までの3日間にわたり開催されました。IFDHの34加盟国の中、24か国41名の代表者と執行部役員5名が出席しました。これまでの会長であるニュージーランドのRobyn Watson氏から新会長になられたオランダのCorrie Jongbloed氏へバトンタッチが行われました。

最初の議案として、IFDHのMissionについて検討をしました。これまでIFDHの目的のみの提示でしたが、Missionを追加することにより、IFDHのあるべき姿が明確になります。Missionの内容は次の通りです。

「The International Federation of Dental Hygienists is an international non-profit association uniting national Dental Hygienist organizations, by fostering leadership and collaboration. IFDH is the principal advocate for the dental hygiene profession globally and promotes excellence in oral health education, research and practice. IFDHは国際的な非営利団体であり、リーダーシップや連携を強めることで世界各国の歯科衛生士会の団結力を高める。さらにIFDHは専門職としての歯科衛生士を世界的に代表する団体であり、オーラルヘルスの教育と研究と実践を高める団体である。」



シンポジウム開会式 オープニングセレモニー

このMissionの具体的な活動は、Membership(会員管理)、Infrastructure(組織拡大)、Education(教育)、Advocacy(啓発)、Corporate(企業との連携)が含まれています。

次の議題としては、次期役員(2019~2022年)の選出が行われました。次期会長はカナダのWanda Fedora氏、副会長はイギリスのMichaela O'Neill氏、財務担当者はアイルランドのDonna Paton氏、秘書はオーストラリアのMelanie Hayes氏に決定しました。

続いて、開催時期の再検討が行われました。前回の会議で2022年以降2年に一度の開催を決定したものの、参加国から頻



HoD会議 24か国から41名の代表者が出席  
の結果、世界的な変化の速さに対応するためには、やはり2年に一度の開催がふさわしいと、議案が棄却され、2年ごとの開催に再決定しました。

さらに、次々々期の開催国の選考が行われました。次期2022年の開催国はアイルランドに、次々期2024年の開催国は韓国

回の開催は、経済的な負担が大きいという意見が出され、再度3年に一度に戻せないかという議案が提出された

ためです。討論の結果、世界的な変化の速さに対応するためには、やはり2年に一度の開催がふさわしいと、議案が棄却され、2年ごとの開催に再決定しました。

にすでに決定しています。2026年の開催国として立候補した3か国のプレゼン後、選挙によってイタリアのミラノでの開催が決定しました。

このように次々と重要案件が討議決定されていましたが、今回の会議で決定までに至らなかつた課題については、引き続き検討していくことになりました。

具体的には、1) 歯科保健医療従事者であるデンタルセラピストの参加を含めたIFDHの在り方について作業部会を立ち上げ、タスクフォースを決めて検討していくこと、2) 世界的な歯科衛生士の日(週・月)を検討していくこと、3) 歯科衛生研究をIFDHと協力して推進していくこと、4) HoD会議の中の、教育・研究委員会について、教育と研究とに分けた委員会を検討すること、5) インターネットを活用した生涯研修の強化をしていくこと等です。



日本代表の吉田学会長と武井会長



Robyn Watson IFDH前会長(左から2番目)と懇談

## \* \* \* ISDH(International Symposium on Dental Hygiene)[ブリスベン] \* \* \*

### 歯科衛生国際シンポジウム

第21回ISDHは、豪州歯科衛生士会(Dental Hygienists Association of Australia:DHAA)をホストとして行われました。今回のテーマは、「LEAD」でした。この「LEAD」とは、Leadership(リーダーシップ)、Empowerment(エンパワーメント)、Advances(進歩・発展)、Diversity(多様性)を示し、これに基づいてプログラムが構成されました。



シンポジウムプログラム

8月15日(木)の10時より、ISDHのオープニングセレモニーが行われました。各国の代表者がアルファベット順に国旗を持ってフロアへ入場行進し、壇上に上がりました。日本代表の二人は、赤いはっぴを着用して行進しました。最後に行進したのは、



ISDH開会式 はっぴを着て Happyに行進する日本代表



日本からの参加者と一緒に記念撮影

IFDH執行部員たちでした。各国の代表者が掲げた国旗が舞台後方に並べられ、国際色豊かな雰囲気になった舞台で、来賓スピーチの後オーストラリアの伝統的な音楽や踊りが披露されました。

8月16日(金)は、サンスター財団主催の第5回世界歯科衛生士賞受賞者2名の表彰式がありました。この世界歯科衛生士賞は、歯科衛生学や患者、地域社会、一般社会に優れた貢献をした歯科衛生士を称える目的でサンスターが2004年に創設したものです。この賞は独立の専門家による選考委員会による厳正な審査により選出する個人または団体に対して贈呈されます。サンスター財団とISDHが選定した審査員には薄井由枝歯科衛生士があり、日本人も活躍しています。今年は、カナダの



サンスター賞審査員の薄井由枝氏(左端)

「重度歯周病におけるロリクリンの役割」に関する研究と、オーストラリアの「公的小児歯科プログラムにEBDの導入」に関する活動が表彰されました。サンスター財団より、世界歯科衛生士賞へ日本からの応募が期待されました。

同日午後には、ISDHが注力している「社会責任プロジェクト」の発表がありました。この背景として、2010年にスコットランド

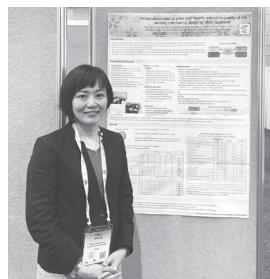


社会責任プロジェクト  
吉田学会長のプレゼン

で開催されたISDHで、HoDメンバーから社会的責任を促進すべきという声があがり、2019年のISDHにて成果発表が行われることとなっていました。今回、16題の成果発表があり、発展途上国における子供たちを対象とした歯科保健活動や高齢者のフレイル対策に関する活動など、様々な活動内容が紹介されました。日本からは吉田

学会長が「Establishing a System for Dental Hygienists Taking Part in Disaster Relief Activities in Japan ~日本における災害歯科保健活動のためのシステム構築」について発表を行い、他国から「大変重要な発表である」と、高い評価をいただきました。

期間中、現代美術館でのIFDH  
会長主催のパーティやHoward  
Smith Wharvesでのサンスター  
財団主催のガラディナーが開催さ



ポスター発表をされた  
小原由紀さん



ガラディナー(HoDのメンバー)

れました。

今回のISDHの参加者は、34か国1135人でした。日本からは25名が参加しました。94点のポスター発表のうち、日本人の発表は



デンタルショード

7点でした。またデンタルショーには40社の展示があり、2019年のISDHも盛会のうちに幕を閉じました。閉会式ではたくさんの関係者への感謝のスピーチや新役員の紹介の後、2022年の第22回ISDH開催地アイルランドのダブリンの紹介がありました。アイルランドは、コンパクトながら文化や自然が凝縮された魅力的な国です。3年後のISDHに向けて、日本の歯科衛生士も学会発表やサンスター財団主催の世界歯科衛生士賞の受賞に向けて皆様と一緒に努力していきたいと思います。



#### 閉会式にて新役員の紹介



歯ブラシ480本で作られたドレス

(日本歯科衛生士会 会長 武井 典子)

日本歯科衛生学会 学会長 吉田直美)

\* IFDHホームページは「言語選択」で日本語を選択すると、日本語で閲覧することができます。

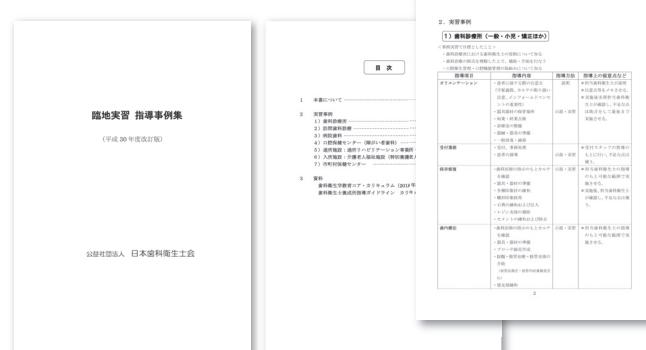
「臨地実習 指導事例集(平成30年度改訂版)」をご活用ください

教育養成委員会では「臨地実習 指導事例集(平成30年度改訂版)」を作成しました。この事例集は、臨地実習の場で歯科衛生士学生の指導に携わっている歯科衛生士に指導の事例を示したもので、平成22年に(公社)日本歯科衛生士会で発行した事例集の改訂版です。

近年、社会の変化、医療の進歩に伴い、医療安全、チーム医療、地域包括ケアシステム、健康長寿社会など歯科保健医療で歯科衛生士に求められる業務が変化してきている状況を反映しています。

実習先の実情はさまざまであるため、事例を参考にしながら、各施設の状況に合わせ、また学生の実習時期や技量を考慮して、指導内容を計画実施していくだければ幸いです。

この事例集は日本歯科衛生士会ホームページ「刊行物・資料」にも掲載していますが、添付のQRコードからもご覧いただけます。ぜひご活用ください。



(教育養成委員會)



## 沖縄県地域ケア会議への参加について

沖縄県歯科衛生士会  
会長 比嘉 香恵子



### 沖縄県の概要

沖縄県は日本の南(最南端:波照間島)西(最西端:与那国島)方向にあり、距離にして東西1,000kmの広大な海域に点在する琉球諸島の島々からなりたっている。大小160の島々のうち、有人島は47島41市町村で、約140万人の県民が住んでいる。総人口に占める65歳以上の割合(高齢化率)は2018年3月現在で21.1%となり、「沖縄戦で失われた世代がいる」「出生率が高く子どもが多い」ことから今まで最も低かったが、全国に遅れて21%を超える超高齢社会を迎えた。

### 地域ケア会議への参加の経緯

平成26年度末に沖縄県では、全国に先駆けて開催されていた大分県での地域ケア会議を、各専門職団体と共に視察した。当会では残念ながらその視察と一緒に参加することができなかったが、翌年からモデル事業として始まった2市町村のうちの「沖縄市」への自立支援型地域ケア会議に、最初から声をかけていただき参加することになった。これは県の視察先であった大分県歯科衛生士会の活躍が非常に大きかったからである。

### 地域ケア会議の参加状況

モデル事業での会議には最初は、役員・病院勤務の歯科衛生士を中心としたメンバーで助言者として参加していたが、最近では地域活動歯科衛生士が中心となり会議に参加している。参加状況は平成27年度が2地区20回程度、平成28年度13地区58回、平成29年



度13地区75回、平成30年度16地区123回と歯科衛生士会へ会議の参加を依頼する市町村は年を追うごとに増えてきている。

### 沖縄県歯科衛生士会の取り組みと今後

モデル事業スタート時(平成27年度)は、月に2回の地域ケア会議を何度も傍聴参加し、会議の雰囲気に慣れ、助言のシミュレーションをはかった。また、参加会員同士で会議の意味についての確認や会議資料を見慣れるようにしていった。その年は沖縄県歯科衛生士会が九州ブロック会議開催地となっていたため、ブロック会議当日の会議前に、急遽大分県歯科衛生士会の有松ひとみ会長に地域ケア会議のための研修会をしていただいた。翌年の平成28年には歯科医師会との共催事業での研修、沖縄県での多職種研修、平成29年度の多職種研修と何度も有松会長に来県していただき、力になつていただいた。会の研修会としては地域保健担当委員会を中心となって開催していくなど、地域ケア会議に参加する会員の育成に力を入れてきた。研修に参加することが難しい離島会員へは、研修会のDVDとレジメ、都道府県歯科衛生士会長会で配布された「地域ケア会議マニュアル(案)」を送り勉強会を開催してもらった。八重山地区及び宮古地区は、支部化したことで市町村から本格的な依頼が昨年度より始まっている。



また、沖縄県の動向として平成30年度より、「医療に関連するアセスメント情報から要介護状態の改善および悪化の防止、重度化予防」ということで専門職における役割の明確化と普遍化に向けて、疾患別にアプローチしていく地域ケア会議のモデル事業をスタートしている。

地域ケア会議開始当初は、準備されている資料は「基本チェックリスト」しか口腔に関する記載はなく、歯牙の数や義歯の有無すらチェック項目にないことも多く、歯科が必要とする情報が非常に少ないというとまどいが、参加歯科衛生士の不安な声として上がっていた。しかし、年を追うごとに、主催する市町村や介護支援専門員、サービス事業所等が「口腔」についてアセスメントする動きがでてきていた。これまで「口腔」は介護の中で常に優先順位は下位になりがちであったが地域ケア会議を通して、介護の中に「口腔」を観察する目が養われつつある。地域ケア会議で期待できる効果として掲げている中に「ケアマネージャーおよびサービス事業所のアセスメント力の向上や課題分析力向上」などがある。今後も高齢者ケアにかかわるすべての職種(会議参加職種)に対し、口腔の重要性を伝えることができる会員が増えるように研修会を企画していきたい。

### 令和元年度は「第9回歯科衛生士の勤務実態調査」の年です

「歯科衛生士の勤務実態調査」は、会員の皆様にご協力をいただいて、5年ごとに実施する重要な調査です。広く社会に歯科衛生士の勤務実態の課題を示すために、ひとりでも多くの会員の皆様からご回答をいただくことで、資料としての信頼度が高まります。

調査結果のダイジェスト版は「歯科衛生だより会報」に掲載し、会員の皆様にお知らせします。

10月に本調査を郵送します。ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

回収率  
100%を  
目指して!



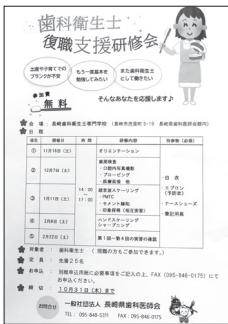
## 歯科衛生士の人材確保・復職支援等に関する取り組み ～長崎県の現状、問題点、今後について～

一般社団法人 長崎県歯科衛生士会 前会長 山口 とき子

現在長崎県を含め、全国的に歯科衛生士不足が深刻な状況であると考えられます。その対策として本県では、長崎県歯科医師会の人材育成（復職支援）プロジェクトとして、まず復職を希望する歯科衛生士の登録サイトの開設から始まりました。登録者は、年々増加傾向で、7月現在383名です。長崎県歯科衛生士会では、平成28年度より、長崎県歯科医師会とともに、離職に伴い再就職に不安を抱える歯科衛生士の復職支援の研修会の開催に取り組んでいます。研修会への参加は、現役の歯科衛生士も可能です。今秋、4回目の開催を迎えます。その取り組みと問題点等について紹介いたします。

### 1.長崎県歯科医師会との 復職支援事業運営委員会開催(年に3、4回)

研修会開催にあたり上記委員会では、研修会の日程、内容、周知方法、受講対象者などの検討を行います。また、開催案内の送付時期や対象者、研修会の資料作成（リーフレット、冊子など）や、そのほか、研修会のインストラクターや協力者、研修受講者への保育サービスなども検討します。



### 2.復職支援研修会開催

#### 【研修内容】オリエンテーション(初回)

- 実技研修：セメント練和、TeC作製、印象採得、口腔内写真撮影、歯周検査、スケーリング、歯面研磨

\*実技研修の前にスライドによる「ミニ講義」を15分程度行います。

#### 【研修コース】

- 平成28年度：6回コース（各コース90分～120分）  
参加人数：6名（うち未就業者は4名、延べ20名）
- 平成29年度：3回コース（各コース180分）  
参加人数：21名（うち未就業者は7名、延べ53名）
- 平成30年度：4回コース（各コース180分）  
参加人数：15名（うち未就業者は6名、延べ35名）

本研修会の定員は25名ですが、上記のように、特に初年度は申し込み人数が少ない結果となりました。周知不足によるものと推測されます。研修会実施に際し、歯科衛生士養成校の協力、つまり場所の提供や教務の協力が必須であり、何よりも強力であると思います。研修会受講については、本人の希望によりコース選択を可能にしています。研修会の教材として、長崎県歯科医師会で作成した「リカバリーノート」を配付（無料）し、家庭での復習が可能です。

研修会を受講した歯科衛生士の評価や意見として、「基礎を学べてよかった」「復習することができてよかった」「模擬患者による実技体験ができてよかった」



「今後も研修会を継続してほしい」といった意見が多かったことは評価できると思います。研修会受講に対する満足度は高かったのですが、自己評価については少し不満足といった意見もありました。離職

中の歯科衛生士で「再就職の自信につながった」と回答した人がおよそ8割でした。一方で、受講者の中には、受講した結果、「不安につながった」との意見もあり、指導者側の今後の対応も検討課題と思われます。さらにTeCの作製が時間内に完成できないといった課題も残りました。研修会受講者には、最終日に1人ずつ受講証が手渡され、研修は終了となります。

#### 今後の歯科衛生士復職支援研修会に向けて

近年、本県を含め全国的に歯科衛生士の早期離職者の増加、歯科衛生士養成校の定員割れなど歯科衛生士不足が深刻な状況と考えられ、離職した歯科衛生士の掘り起こしが重要だと思います。今後もこのような実技研修に継続的に取り組むことと、離職した歯科衛生士が継続して勤務できる体制の整備が課題といえます。

これまで3回開催された研修会は、歯科医師主導で行われてきましたが、今年（令和元年）の研修会は、歯科衛生士主導で進めていくことになりました。

今後、研修会開催にあたり重要な課題は「周知方法」です。復職支援事業運営委員会において最も時間を費やす検討しています。離職中の歯科衛生士は、歯科衛生士会に入会されていないなど、研修会案内の情報が入りにくい状況と思われます。これまでの周知方法として、歯科衛生士卒後研修会の案内時や、今年度は各地区で6月に開催されたデンタルフェスティバルにてチラシの配布を行いました。今後は、地域のふれあい掲示板や、自治会へのポスター掲示なども検討しています。

本研修会は日常の臨床に役立つ内容になっています。現役歯科衛生士の参加はもちろんのこと、特に、離職中で復職を考えている歯科衛生士の方にぜひ参加していただきたいです。

今後も長崎県歯科医師会と協力しながら、復職支援歯科衛生士を増加させていきたいと考えています。



# 新人スタッフが育ついい先輩、いい職場の作り方

～歯科衛生士ハイジと一緒にStep up book『同じ空の下で』<sup>1)</sup>の医院に学ぶ～

蓮井歯科・ファミリークリニック 歯科衛生士 竹井 美紗 院長 蓮井 義則

「教えたことができていない」「自分で考えて動いてくれない」「すぐに辞めてしまった」、新しくスタッフを迎えたものの、このように悩んでいる方もいらっしゃるのではないかでしょうか。うまくいかないのは自分の指導方法が悪いせい? それとも相手が悪いせい? 意外と関係の作り方ひとつでその悩みは解決するかもしれません。

## 1. 大事なのは“指導力”ではなく“サポート力”

### ① お世話係は最強の味方

「院長や先輩スタッフうまくやっていけるだろうか」、新人スタッフが入社時に一番不安に思っていることです(図1)。良好な関係を築くためには、まずは「自分は医院に受け入れられている」と認識し安心してもらうことが大切です。そこでキーパーソンとなるのが“お世話係”です。



図1.新入社員へのアンケート結果

(「歯科衛生士の人材確保・復職支援等に関する検討会」報告書より転載)

お世話係は名前の通り、初めての環境に入ってきた新人スタッフがいろいろ困らないようにお世話をすることです。二人はいつも一緒に行動し、基礎の部分(図2)はお世話係から学んでもらっています。最初は教わる窓口を一つに絞るためでもありますが、最も大切な役割は新人スタッフにとって一番の味方となることです。たとえ新人スタッフが失敗してもお世話係は厳しく指摘することはありません。お世話係のすべきことは指導することではなく、寄り添うこと。どうして失敗したのか、どうすれば次からきちんとできるようになるのか“話をよく聞いて一緒に解決策を考えあげること”が役目<sup>1)</sup>だからです。気持ちを共有することで二人は一緒に成長し、お互いの良き理解者となり心の支えとなるでしょう。

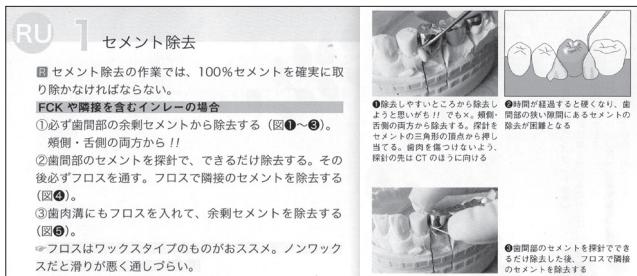


図2. 基礎を教えるときはマニュアルを活用<sup>2)</sup>

### 【お世話係に向いているのは?】

お世話係は新人の気持ちが理解しやすい一つ上の先輩が適任です。解決策を考えるときは新人の頃を思い出しながら自分自身の失敗や苦手だったこと、そしてどのように克服したのか具体的に話しましょう。一番身近な先輩も同じような経験を乗り越えて今がある、この事実を実感することで今後のモチベーションにもつながります。

### ② 周りのサポート

もちろんお世話係だけではなく周りのスタッフもサポートします。お世話係の次に関わるのは“指導者”であり二人の見守り役です。指導者は課題が達成できているかのチェックや知識、技術面で二人が行き詰ったときのカバーなどを行います。チェック等を行う立場上厳しいことを言わなければならぬこともありますが、そこはお世話係がフォローしましょう。

また週一回の技術研修会も大事な機会です。スタッフ全体の研修を目的としていますが、お世話係、指導者以外の先輩たちともチームとなり研修を行うことで吸収の幅も広がります。何よりコミュニケーションをとることでお互いを理解し連携力が生まれ、チームとしての一体感も高まります。

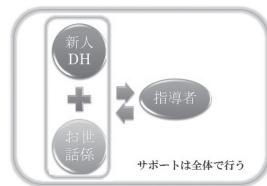


図3. 新人スタッフと周囲の関係性

当院では昼休み前に

- 月曜日 運営会、リーダーミーティング
- 火曜日 カンファレンス、症例検討会
- 水曜日 技術研修会
- 木曜日 各部署ミーティング を実施

「人を育てる」「人をつくる」には教育こそが一番大切。スタッフを育てるための時間を十分にとりチームとしてみんなで話し合いながら勉強、教育を行っている。<sup>3)</sup>

## 2. 自主性・主体性を伸ばすには?

### ① 方向性を合わせよう

医院の成長のためには組織の多様性が必要です。新人スタッフも自分の考えを持って動けるようになってほしいところですが、好き勝手にしていいわけではありません。

まずは行動基準となるもの、医院が大切にしている理念を伝えましょう。そのときに医院の今までの歴史も伝えると何を大事にしてきたのかという核の部分もよく伝わります。また朝礼時に院長の考え方をタイムリーに発信したり、年間目標を掲示したりすることで医院全体のベクトルも合わせます。

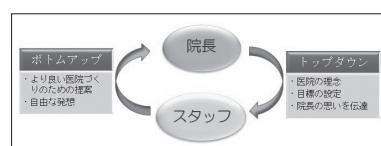


図4. 成長を続ける医院のシステム

### ② 考えさせる⇒任せる⇒達成させる

自分から動けるようになるには考える力が必要です。考える習

慣を身に付けてもらうためには、こちらが一方的に話すのではなく「〇〇さんはどう思う?」と意見を求めましょう。仕事を教える際もやり方だけではなく「なぜこうするのか?」という理由も伝えると応用力も培われます。また、責任感と達成感をもつことがやる気にもつながるので少しずつでも仕事を任せていきましょう。任せたあとはうまくいくようにフォローはしても必要以上に指示はしないほうがのびのびと仕事に取り組むことができ、主体性も伸びていきます。

### 3. スタッフ全員を愛する職場を作る

そして何より大切なこと、それは新人も先輩も関係なくスタッフ全員がそれぞれを尊重し、愛情をもっていることです。愛情のない言葉、態度では伝えたいことも伝わらないですし、決して良

好な関係を築くこともできません。それは新人スタッフに対しても同じです。

日頃から「ありがとう」と感謝の言葉を言っていますか。たとえ価値観の違いはあってもお互いの意見を尊重しながら話せているでしょうか。自分たちにとって気持ちのいい職場づくりをすることが、新人スタッフにとっても安心できる環境づくりになるのです。

#### 【参考文献】

- 1) 蓬井歯科・ファミリークリニック編、蓬井義則・三木千津監修:ハイジと一緒に Step up book 「同じ空の下で」kira books.、2014
- 2) 蓬井義則、三木千津編著:『歯科衛生士・アシスタントポケットブックRu』デンタルダイヤモンド、2010
- 3) 蓬井義則監修:『患者さんfirstで行こう!』kira books.、2018
- 4) 日本歯科衛生士会:『歯科衛生士の人材確保・復職支援等に関する検討会報告書』2017

## 令和元年度 厚生労働省の「こども霞が関見学デー」に参加しました

令和元年8月7日(水)、8日(木)各10時~16時、「こども霞が関見学デー」が行われました。「こども霞が関見学デー」は、各府省庁が連携し、省庁見学や体験活動などを通じて子どもたちが夏休みに広く社会を知るきっかけとなることを目的に、毎年実施しているものです。厚生労働省では、「夏だ! 試して、遊んで、学べる2日間」のキヤッチフレーズのもと、「厚生労働大臣とお話ししよう!」「補助犬ってなに?」「人の命を救う、実は身近な医療機器を使ってみよう」「一緒に学ぼう! 食べ物の安全!!」など夏休みの自由研究にも役立つ28のプログラムが用意されました。

その中の1つ「お口をきたえて健康ながらだを目指そう!」のプログラムに医政局歯科保健課歯科口腔保健推進室からの応援要請で、昨年に引き続き日本歯科衛生士会から上田和美副会長をはじめとする役員(各日2名、延べ4名)が対応しました。

このプログラムは、見学者(幼児、小学生など)に対して「食べる、話す、飲み込む」などの機能を意識させることができ、口の周りの筋肉などを楽しく鍛えるためのブース



受付風景

やプレゼントコーナーが設置されました。日本歯科衛生士会からの参加スタッフは東京医科歯科大学のボランティア学生と共に、ガムを使って噛む力を調べ、「よく噛んで食べる8カ条」の大切さを説明、さらに口腔機能を高めるトレーニング(あいうべ体操、パタカラ体操)の紹介と指導をし、保護者からの質問にも対応しました。

ほとんどの人が呼気圧測定器を使うのは初めてで、説明を



呼気力測定中

受けたのち測定しました。普段、吹奏楽器を練習している子供の中には吹く力が大人と同じくらいある子どももいて驚かされました。吹き戻し4種の中からそれ

ぞの測定値に合ったレベルのものが手渡され、ただ吹き戻しを伸ばすだけでなく、伸ばした状態を維持することで横隔膜が押し上げられること、すなわち最後まで息を吐ききることが大切であるとの説明を聞き、真剣にトライしていました。また、この吹き戻しを利用したゲーム「お口でボウリング」も意外と難しく狙いを定めて吹いてもストライクが取れず、工夫してチャレンジしていました。次に、「かむ力」を調べるために、ガムを60回噛み、その色調で評価し、「よく噛むこと」の効能などについて説明しました。



吹き戻しを使ったトレーニング指導

また口腔周囲筋を鍛える方法で「あいうべ体操」や「パタカラ体操」の説明をしました。初日は、中澤桂一郎先生(利根歯科診療所 所長)が一人一人に楽しくわかりやすく説明されて、子どもだけでなく保護者も興味深く耳を傾けていました。最後のスポーツ吹き矢では、ただ吹くだけでなく「礼に始まり礼で終わる」ルールが指導され、姿勢を正し精神を集中して「的」に当てます。子どもたちの真剣な顔や笑顔の溢れる会場で、私たちも共に楽しみながら指導しました。



スポーツ吹き矢に挑戦

全省内2日間にわたり実施されたこの企画は、来場者(保護者含む)4,160名を越え、当プログラムには245名の参加がありました。自分の呼気を意識し、楽しみながら口腔周囲筋を鍛える良い機会になり、絶好の口腔健康教育になったのではないかと思います。

(広報委員会 伊藤 真知子 井出 桃)

## 歯科衛生臨床研究助成の紹介

本会では、国民の歯科口腔保健の推進に寄与することを目的として、歯科衛生臨床研究助成を行っています。本研究は、株式会社YDMの協賛による臨床研究テーマに基づく指定研究です。

下記に、平成30年度助成者の研究概要を紹介します。令和2年度研究助成の公募については令和2年2月以降の「歯科衛生だより会報」およびホームページに掲載の予定です。

### 地域で取り組むオーラルフレイル予防策の構築を目指した介入研究

藤原 奈津美（徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔保健支援学分野）

高齢者の口腔機能低下は、口腔衛生や食生活などに影響を及ぼすことから、高齢者自身の口腔リテラシー向上とオーラルフレイル予防行動の推進は重要な課題である。本研究では、オーラルフレイル予防策として口腔体操プログラム（以下、本プログラム）を実施し、自立高齢者の口腔機能、口腔健康や食行動に対する意識に与える効果について検討した。徳島県内の自立高齢者43人（介入群32人および対照群11人）を対象とし、本プログラムを5か月実施した。内容は、①本学歯学部作成の「くっぽちゃんの健口体操」DVDによる口腔体操の集団実施 ②同ポスターを用いた口腔体操の個人実施 ③発表者らによる口腔に関する講話の聴講とした。本プログラム前後に対象者の口腔および身体機能評価を実施した。またフレイルの兆候、口腔・栄養・健康のリテ

ラシーに関する項目を含む質問紙調査を行った。調査結果は、介入群の介入前後による効果および対照群との群間比較を行い分析した。介入群において、本プログラムの実施後に口唇閉鎖力、舌突出量、舌圧の口腔機能の有意な向上を認めた。口唇閉鎖力の変化は口腔体操の実施頻度と関連する可能性が示された。質問紙調査の結果から、介入群は対照群と比較して口腔リテラシー向上や食行動に対する意識が有意に高まり、本プログラム実施はこれらの意識変容をもたらす可能性が示された。したがって、本プログラムは、高齢者の口唇閉鎖力、舌突出量、舌圧の口腔機能向上に加え、口腔健康や食行動に対する意識変容をもたらす効果を有することが示され、今後も継続した地域への介入が期待される。



### Linking JDHA to IFDH

#### 『International Journal of Dental Hygiene』

本会では、IFDH発行の『International Journal of Dental Hygiene』の購読をしています。2019年5月号の目次を紹介します。本会において閲覧することができますので、ご希望の方は国際協力委員会までお申し込みください。（FAX 03-3209-8023）

#### 国際歯科衛生士誌

#### 2019年5月 第17巻2号

##### 総 説

- プラーク除去および歯肉炎に対する炭酸水素ナトリウム含有歯磨剤の効果
- ホワイトニング後のプラークおよび歯肉炎の変化
- 唇顎口蓋裂患者における披裂部の衛生状態の改善方法はあるか
- 口腔衛生介入における心理学的理論の役割

##### 原 著

- 平切毛とテーパー毛が植毛されたヘッドを持つ最新電動歯ブラシと手用歯ブラシによるプラークと歯肉炎の減少効果の比較：5週間のランダム化臨床試験

- 音波歯ブラシと手用歯ブラシが口腔扁平苔癬患者の剥離性歯肉炎に与える臨床的および生化学的データの比較：ランダム化比較試験
- キトサン含有の回転ブラシを用いたPTCによるインプラント周囲粘膜炎への効果：ランダム化比較試験の予備研究
- 歯科衛生士の作業姿勢評価結果と足底圧力の違い
- 口腔衛生的カルチャーショック：頭頸部癌患者における術後の口腔衛生管理の探索
- エクスピローラーと超音波チップによる歯石探知の比較

### 理事会報告

令和元年度第2回理事会が7月7日に開催された。審議事項および報告事項は次のとおりである。

#### 審議事項

- (1) 令和2年度予算・制度等に関する要望について
- (2) 委員会規程の一部改正について【関連事項：定款施行規程の一部改正】
- (3) 令和元年度歯科衛生士復職支援・離職防止等研修指導者養成研修等事業について（厚生労働省委託事業）
- (4) 災害への対応について【関連事項：災害歯科保健委員会について】
- (5) 新入会員の承認について
- (6) その他

#### 報告事項

- (1) 会務報告について
- (2) 令和元年度歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会について  
【関連事項：ガイドライン添付資料新人歯科衛生士等の育成プロセス 改正のための準備委員会】
- (3) DH-KEN事業の運用に関する契約について
- (4) 委員会の進め方及び旅費精算等について

- (5) 第2回2040年を展望した社会保障・働き方改革本部（資料）について
- (6) 2040年を見据えた歯科ビジョン第1回検討会報告について
- (7) 日本歯科医師会主催の勉強会報告について
- (8) 全国共通がん医科歯科連携講習会テキスト（第二版）について
- (9) 公益財団法人国際医療技術財団JIMTEF医療関連職種団体協議会報告について
- (10) 公益財団法人8020推進財団理事会報告について
- (11) 日本スポーツ歯科医学会 JASD 2019年度第2回理事会について
- (12) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定について

#### その 他

- (1) 健康増進法の一部を改正する法律の施行に関するQ&Aについて
- (2) 消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する行為のは正等に関する特別措置法の遵守依頼について
- (3) 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）  
～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～【抜粋】